

リデュース・リユース データブックの概要

リデュース・リユースについて

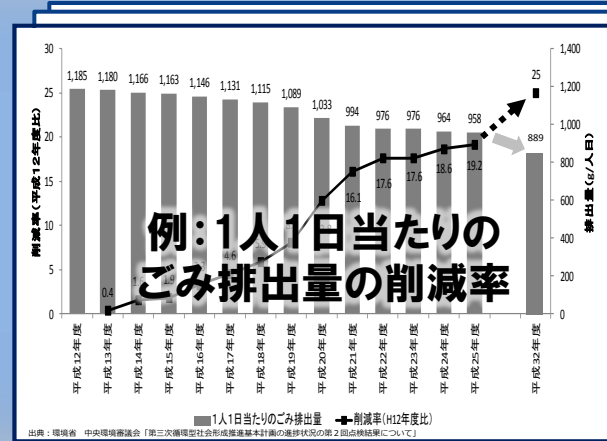
3Rのうち、リサイクルに比べて優先順位が高いにもかかわらず、リデュース・リユースの取組は遅れています。そのため、第三次循環型社会形成推進基本計画ではリデュース・リユースの取組がより進む社会経済システムの構築を目指すこととなっています。

データブックについて

本資料は、リデュース・リユースの進捗状況把握及び政策立案のためのデータ整理を目的に、リデュース・リユース全般に関するデータに加え、リデュース・リユースの取組を3つに類型化した上で、以下のデータを収集し、リデュース・リユースの「いま」をお示しています。

- リデュース・リユースの取組自体の進捗状況
- リデュース・リユースの取組結果としての
 - ・商品の生産・消費量の削減状況及び削減可能性など
 - ・廃棄物発生量の削減状況及び削減可能性など

リデュース・リユース全般に関するデータ



リデュース・リユースの取組の成果の1つとしてごみの削減が挙げられます。平成25年度の1人1日あたりのごみ排出量は958グラムで、平成12年度比では19.2%削減された。平成12年度比25%削減という目標に向かって年々削減が進んでいる。

リデュース・リユースの取組を3類型化

資源を使わない製品作り

製品軽量化や詰替製品などが挙げられます。例えば、新聞用紙の国内生産実績は、全体的な減少傾向の中でも超々軽量紙が一定のシェアを得ており、軽量化が進んでいると言えます。

ものに依存しない生活

食品ロス削減やシェアリングなどが挙げられます。例えば、カーシェアリングの車両台数と会員数はともに年々増加しており、平成27年には車両台数約1万6千台、会員数約68万1千人となります。

ものを長く使う行動

マイボトル利用や使用済製品リユースなどが挙げられます。例えば、使用済製品の回収実施割合は、需給マッチングや輸送距離との関係性が高く、人口密度の高い地域が実施数も多い傾向にあります。

